

富山経済同友会

会報

2026.7月
No. 331



全国立山大使の会

CONTENTS

- | | | | |
|-----------------------|---|--|----|
| ● 委員長会議 | 2 | ● 第4回人財育成・活躍委員会 | 10 |
| ● 第4回デジタル推進委員会 | 3 | ● 富山市中堅教諭等資質向上研修 | 11 |
| ● 第5回総務企画委員会 | 4 | ● 課外授業講師派遣 | 12 |
| ● 第3回観光戦略委員会 | 4 | ● 第90回あけぼの会ゴルフコンペ | 14 |
| ● 第4回観光戦略委員会 | 5 | ● リレーエッセイ ¹³² (瓜生 知史 氏) | 15 |
| ● 第7回交流委員会 | 6 | ● 活動報告 | 16 |
| ● 全国立山大使との意見交換会 | 6 | ● 今後の予定 | 19 |
| ● 第7回全国立山大使の会 | 7 | ● 事務局からのお知らせ | 19 |
| ● 第5回企業経営委員会 | 8 | ● わが青春の1枚 (中沖 雄 氏) | 20 |
| ● 第4回文化芸術委員会 | 9 | | |

2年目の活動が始動

～ 委員長会議 ～



5月19日(火)、令和8年度委員長会議を富山電気ビルディングで開催。常任幹事以上の役員及び代表幹事イニシアティブ委員会（代表幹事等の発議を受け適宜設置）を除く9委員会の委員長ら、計19名が集った。

9委員会は、今年度が活動2年目。委員長らから、提言書や報告書を見据え1年目の活動を更に深化させた具体的な計画・スケジュールが共有されると、適宜、担当役員のフォローも交えながら、活発な意見交換がなされた。



総務企画委員会
山野委員長



交流委員会
伊東委員長



企業経営委員会
山田委員長



デジタル推進委員会
西田委員長



人財育成・活躍委員会
西能委員長



教育を考える委員会
寺島委員長



地域創生委員会
橋本委員長



観光戦略委員会
酒井委員長



文化芸術委員会
近藤副委員長



企業改革の実践事例に学ぶ

— 第4回デジタル推進委員会 —

5月18日(月)、富山電気ビルディングにおいて、第4回デジタル推進委員会(西田美樹委員長)を開催。委員ら43名(オンライン視聴含む)が出席した。

最初に、西田委員長が挨拶の中で、当日のプログラムについて、前回・前々回に続き身近な事例を知る「委員による事例紹介」と、更なる知見を得る「講演会」の二部構成であることを説明。「両プログラムを通じて、皆さまで活発に意見を交わしていただき、実り多い会にしたい」と話した。



西田委員長



山岸 晋作 氏

第一部では、金沢で家具・インテリアの販売やオフィスデザイン等を手掛ける(株)山岸製作所の山岸晋作 代表取締役社長を講師に招き、「老舗家具屋が挑んだ企業改革」と題し講演いただいた。

山岸氏はまず、自社事業を「オフィス改革を起点とした企業改革支援」とであると説明。(株)ケーブルテレビ富山の事例を挙げ、「オフィス改革は、人(採用)を呼び、社員の行動を変え、組織文化を変え、AI活用／DXの土台となる」と述べた。

そのうえで、自身が断行した自社の企業改革について紹介。自社の歴史や改革前の課題を振り返りながら、事業見直し(工場閉鎖)を機に、北陸の中小企業の見通しとなるべく、「机・椅子を売る会社」から「働き方を売る会社」への転換を図り、オフィス改革・働き方改革・AI活用／DXを自社自ら実践した経緯を辿り、その経験を活かし現在、顧客の企業改革支援事業も展開していると語った。

最後に山岸氏は、自身のAI活用方法をもとにAIとの向き合い方を提言。「AIは人が本来やるべき仕事に時間を戻してくれる。定型業務はAIに任せ、経営者は、問いを立て、自分と対話し、『なぜ』を深めて、やりたいコトをとことん描くべき」と講演を締めくくった。



黒川委員



相馬委員



田中委員

その後の第二部では、碓井副委員長・上野副委員長をモデレーターに、委員による事例紹介を実施。今回は、黒川委員(株)北陸銀行 常務執行役員富山地区事業部本部長)、相馬委員(トーワドローンサ

ービス(株) 代表取締役)、田中委員(リコージャパン(株) 富山支社長)の3名に協力いただいた。

プレゼンテーションでは、3者それぞれが自社の「デジタルを活用した経営課題解決につながる取り組み」を紹介。導入・開発したデジタル基盤の内容・機能に加え、その活用方法や推進体制、課題解決への具体的なアプローチ等について説明した。

第一部・第二部ともに、AI活用／DXの在り方やその推進にあたっての経営者のあるべき姿勢にも触れられ、多くの気づきや示唆を与える内容であり、参加者は終始熱心に耳を傾けていた。

今年度の活動方針・年間計画についての検討

～ 第5回総務企画委員会 ～

5月29日(金)、第5回総務企画委員会(山野昌道委員長)を事務局会議室において開催し、委員5名が出席した。

冒頭、山野委員長の挨拶に続き、今年度の活動方針および年間計画について説明が行われた。総務企画委員会の役割として、各委員長との情報共有を行い、課題を把握し、次年度の委員会体制の充実につなげていくことを確認した。また、総務企画委員会を年間4回開催するとともに、委員会相互の情報共有と連携促進を図るため、委員長連絡会議を年間3回開催することとした。



山野委員長



会員数の維持・拡大については、委員から様々な意見が出され、会員数拡大について検討を進めることとした。

また、8月に予定している富山県との意見交換会で取り上げるテーマについても議論を交わし、委員から多様な意見や提案が寄せられ、テーマの方向性が共有された。2年目最初の委員会にふさわしく、終始活発な意見交換が行われ、大変有意義な委員会となった。



富山ギャップ会議～「当たり前」を脱ぎすてる～

— 第3回観光戦略委員会 —

5月26日(火)、ホテルグランテラス富山において第3回観光戦略委員会(酒井郁生委員長)を開催。委員36名が出席した。

今回の委員会は全2回のワークショップ「富山ギャップ会議」の1回目として『「当たり前」の裏側に眠る富山の『想定外=ギャップ』を発掘する』をテーマに開催。

最初に酒井委員長が、人口減少時代における観光の役割や、「数」ではなく「質」を重視した観光への転換の必要性を説明し、訪問者が思わず誰かに伝えたいくなる「驚きやギャップ」を観光の種とする考え方が共有された。



酒井委員長



林口 砂里 氏

続いて、ファシリテーターを務める(一社)富山県西部観光社 水と匠 プロデューサーの林口砂里氏が講義し、地域固有の文化や本物の体験を求める国内外の旅行者が増えており、職人との交流、農業体験、地域文化への参加など、地域の「当たり前」そのものが価値ある観光資源になることを、事例を交えて説明した。

講義の後は6つのグループに分かれてグループワークを実施。それぞれで活発な議論が交わされ、各グループから「祭り」「水」「雪」「呉羽山」「標高差4000m」「健康・ウェルネス」の6つの「ギャップ」が提案された。林口氏からは「各グループのテーマが明確に絞り込まれ、富山らしさと独自性を備えた内容である」と総評が述べられた。

次回、6月開催の第4回委員会では、今回出された「ギャップ」を具体的な体験プログラムや観光商品へと発展させるワークショップを実施する。





富山ギャップ会議～「新・富山」をデザインする～

— 第4回観光戦略委員会 —

6月16日(火)、富山電気ビルディングにおいて第4回観光戦略委員会（酒井郁生委員長）を開催。委員36名が出席した。

今回の委員会は全2回のワークショップ「富山ギャップ会議」の2回目として「『当たり前』を脱ぎ捨てて「新・富山」をデザインする」をテーマに開催。

はじめに酒井委員長が「前回発掘した『ギャップの原石』を磨き上げ、自慢したくなるようなオンリーワンの観光資源に仕上げましょう」と挨拶した。

続いて、前回に引き続きファシリテーターを務める（一社）富山県西部観光社 水と匠 プロデューサーの林口砂里氏が、水と匠で実際に提供しているコンテンツを紹介し、「単なる見学ではなく、オリジナル制作や非公開エリアへの潜入などの付加価値を付けることが重要」とアドバイスした。

その後、前回と同様に6つのグループに分かれグループワークを行い、タリフ（旅行会社がツアーやパッケージを組む際に必要な情報をまとめた資料）作りに挑戦した。各グループからは「富山ウェルネス」「世界の研究者を富山へ」「呉羽山文化ツアー」「スノーパーク」「用水ツアー」「岩瀬の曳山祭りツアー」と題した企画が発表され、林口氏から改善点やアドバイスをいただいた。

委員会ではタリフを作成するには十分な時間がとれなかったため、今後もリーダーを中心にタリフを磨き上げ、完成させる予定としている。



会員エンゲージメントとは

— 第7回交流委員会 —

5月11日(月)、今年度最初の第7回交流委員会（伊東潤一郎委員長）を事務局会議室で開催し、委員9名が参加した。

まずは伊東委員長が、挨拶のあと、今年度の活動方針と活動計画等について説明した。

続いて「会員のエンゲージメント向上」に向けた取り組みについて意見が交わされた。委員からは「アンケートやヒアリング調査を行う前に、委員会の所属状況や出席率、未所属者の数などの客観的なデータ分析を行い、現状を把握しておく必要がある」「『エンゲージメント』という言葉は企業の従属関係を意識してしまいがちなため『満足度・意識調査』としたほうが良い」「なぜ今この調査を行うのかという背景や課題認識をしっかりと説明する必要がある」など活発な議論が交わされた。

まずは、6月に開催される「第7回全国立山大使の会」の日に、会員と意見交換する場を設け、それまでにヒアリング項目をまとめることを確認した。



伊東委員長



全国立山大使との意見交換会

6月19日(金)、日本橋とやま館の「富山はま作」で開催された「第7回全国立山大使の会」に合わせ、交流委員会が「会員のエンゲージメント向上に関する意見交換会」を実施し、全国立山大使6名と交流委員3名が参加した。

はじめに伊東委員長が「交流委員会の活動に会員のエンゲージメント向上が新しいミッションとして加わった。今日は皆さんが富山経済同友会に所属して感じた満足点や不満点、改善案等ざっくばらんなご意見をお聞きしたい。」と意見交換会の趣旨を説明した。

全国立山大使の参加者からは、「富山に所縁のない転勤者にとって、業界の垣根を越えて様々な人と繋り多くのご縁ができたことが本当に嬉しかった」「専門分野だけでなく他業種の話聞いて貴重な体験となった」「富山を離れた後も、全国立山大使の会を入口として繋がりを継続させていきたい」「全国立山大使が参加できるイベントを増やしてほしい」「デジタルツールで簡単に繋がれるようになれば嬉しい」などの意見が寄せられた。

最後に、大橋担当役員が「これからも、より多くの人が集まりやすい時期に全国立山大使の会が開催できるよう検討していきたい。地元富山の会員にとっても、転勤者の多様な知見や経験に触れることは非常に大きな魅力であり、この交流こそが経済同友会の強みである。今後も地元会員と転勤者が楽しく参画できる環境を整え、富山経済同友会をより好きになってもらうことを目指していく」と締めくくった。



富山を語り、つながる

— 第7回全国立山大使の会 —

6月19日(金)、日本橋とやま館の「富山はま作」で、第7回全国立山大使の会を開催。全国立山大使10名と同友会から麦野、牧田、松田代表幹事をはじめ役員ら9名が参加した。

開会にあたり、松田代表幹事が、全国各地から集まった参加者に感謝を述べるとともに、富山を離れているからこそ得られる気付きを持ち寄り、情報交換や交流を深める機会にしたいと挨拶した。

続いて、鵜殿世話人の挨拶の後、麦野代表幹事が、「久しぶりにお会いする顔、先月お会いした顔、先週お会いした顔など様々ですが、今日は楽しくやり



松田代表幹事



鵜殿世話人

ましょう」と乾杯の発声を行い、交流会がスタートした。

交流会の中盤では、現在は全国各地で活躍されている全国立山大使の皆さんから、富山での経験を糧にしながら、今もなお熱く富山を応援し続けている想いや近況を報告。ユーモアを交えたエピソードと富山への深い愛着が語られ、会場は終始和やかな雰囲気に包まれた。

最後に、牧田代表幹事が、次回の参加を呼びかけるとともに「年齢に負けずにお元気で」と再会を祈念し、会を締めくくった。



麦野代表幹事



牧田代表幹事



交流会後の記念撮影



持続可能な経営を学ぶ

— 第5回企業経営委員会 —

6月24(水)～25日(木)、第5回企業経営委員会（山田恵子委員長）を開催し、委員17名が参加。「持続可能な経営を目指すための諸課題への対応」をテーマに関東地方を訪問し、持続可能な経営に向けた先進的取組みを視察した。

〔6月24日(水)〕

① NTTe-City Labo

NTTe-City Labo は、NTT 東日本が運営する地域課題の解決と地域循環型社会の実現に向けた先端技術・ソリューションの実証フィールド。NTT 東日本が培ってきた通信インフラや ICT、AI などの先端技術を活用し、防災・減災、地域 DX、エネルギー、次世代ネットワークなど幅広い分野で、自治体や企業との共創による地域課題の解決に取り組んでいる。

当日は、多分野にわたる展示・体験施設を見学し、防災や地域 DX、次世代通信技術などの先進的な取組みについて説明を受けた。通信事業者として培われた高度な情報通信技術を基盤に、地域課題をデジタル技術で解決する事例に触れながら、地域循環型社会の実現に向けた最新技術やソリューションへの理解を深めた。



② Automation Square HANEDA

Automation Square HANEDA は、日立製作所と日立オートメーションが羽田イノベーションシティに開設した、自動化・最適化技術の協創施設。製造業や物流業が抱える人手不足や生産性向上等の課題の解決に向け、ロボットや自動搬送システム、AI や DX を活用した最新ソリューションを、実機展示やデモンストレーションを通して体験できる。

当日は、スマートファクトリーや物流の高度化を支える先進技術について説明を受けながら施設内を見学した。AI を活用した自動化システムのデモンストレーションでは、参加者が身を乗り出して見入っていた。製造現場や物流現場における DX の可能性や、自動化技術の将来性への理解を深める機会となった。



〔6月25日(木)〕

③ JAXA 筑波宇宙センター

JAXA 筑波宇宙センターは、日本の宇宙開発を担う中核的な研究・開発拠点であり、人工衛星の開発・運用や国際宇宙ステーション (ISS) 「きぼう」の運用・利用をはじめ、宇宙飛行士の養成など、わが国の宇宙開発を支えるさまざまな取組みが行われている。

当日は、宇宙飛行士養成エリアや「きぼう」日本実験棟運用管制室を見学し、宇宙飛行士の訓練内容や24時間体制で行われる運用管理について説明を受けた。また、展示館「スペースドーム」では、人工衛星やロケットの実物大モデルなどを見学した。参加者は、宇宙開発を支える高度な技術力や挑戦を続ける研究者の姿勢に触れ、科学技術の重要性を改めて実感する視察となった。



④ 首都圏外郭放水路

首都圏外郭放水路は、洪水から首都圏を守るために整備された世界最大級の地下放水路である。

地下約50メートルに位置する巨大な調圧水槽「地下神殿」を見学し、豪雨時には河川から流入した水を一時的に貯留し、江戸川へ排水する仕組みについて説明を受けた。高さ約18メートルの巨大な柱が立ち並ぶ壮大な空間に参加者は圧倒されるとともに、近年頻発する豪雨災害に対応する首都圏の防災インフラの重要性を実感した。また、施設の役割や運用方法への理解を深め、防災・減災対策の必要性について再認識した。



2日間にわたる今回の関東視察では、持続可能な社会と企業経営を支える最先端技術や先進事例に触れ、多くの知見と示唆を得ることができた。参加者にとって、今後の企業経営を考える上で、大変有意義な視察となった。



昆布の魅力を富山から世界へ — 第4回文化芸術委員会 —

5月12日(火)、オークスカナルパークホテル富山において第4回文化芸術委員会（近藤裕世委員長）を開催し、委員32名が出席した。



近藤委員長

冒頭、近藤委員長が、昨年度の活動について、「これまで知らなかった富山の文化芸術に触れ、期待とワクワク感が大きくなった」と振り返るとともに、今年度の活動計画を共有し、「残りの1年も、富山の魅力を再発見しながら、意義深い活動につなげていきたい」と挨拶した。

続いて、昆布締め専門店「クラフタン」代表の竹中志光氏が「魅惑の万能食材 昆布の可能性について」と題し講演を行った。竹中氏は、自身の生い立ちや起業に至るまでの経緯について語り、幼少期は人目を気にする内気な性格であったこと、社会人になってからも“平凡なサラリーマン”であったことを振り返った。39歳の時に祖父が亡くなったことを大きな転機として、「自分も祖父のように地元に貢献できる存在になりたい」と決意。地域活性化の方法を模索する中で、富山の郷土料理でありながら専門店が存在しなかった「昆布締め」に着目し、“誰もやっていないなら挑戦する価値がある”との思いから、世界で唯一の昆布締め専門店「クラフタン」を立ち上げた経緯を説明した。



竹中 志光 氏

また、昆布は古来より献上品や薬として重宝され、富山の薬売りも中国との取引に関わるなど、昆布が富山の歴史や薬文化と深く結びついてきたことや、昆布が獲れない富山で消費量が日本一となった背景を詳しく紹介した。さらに、昆布の特徴や魅力を解説したほか、講演中には出汁の飲み比べ体験も実施された。



出汁の飲み比べ体験

また、昆布は古来より献上品や薬として重宝され、富山の薬売りも中国との取引に関わるなど、昆布が富山の歴史や薬文化と深く結びついてきたことや、昆布が獲れない富山で消費量が日本一となった背景を詳しく紹介した。さらに、昆布の特徴や魅力を解説したほか、講演中には出汁の飲み比べ体験も実施された。

竹中氏は「昆布の魅力を世界に届けることで、健康で幸せな人が増えるのでは」と昆布の持つ可能性を熱く語るとともに、

「経営者の皆さんには、昆布と高岡の魅力で五感を整え、脳を活性化させながら富山で働き、日本を元気にしてほしい」と呼びかけた。昆布に新たな価値と可能性を見出し、地域資源を活かした挑戦を続ける竹中氏の姿勢は、参加者に大きな刺激と学びを与える機会となった。



DEIで防ぐ静かな離職

—第4回人財育成・活躍委員会—

第4回人財育成・活躍委員会（西能淳委員長）が6月22日(月)、カフェコントレイルにて開催され、委員27名が参加した。

今回は、人財育成・活躍委員であり、（一社）ボディセンス・インスティテュート代表理事、(株) Wellbeing TOYAMA 代表取締役の高橋由紀氏を講師に迎え、「46.9%の衝撃—経営者が今、直視すべき『静かな離職』の正体～無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）が招く損失を防ぐ人的資本経営のDEI実装～」と題した講演を行った。

冒頭、タイトルにもある「46.9%」という数字について、第1子出産を機に離職した女性の割合を示すデータとして紹介した。その上で、近年は制度整備により離職率は改善傾向にあるものの、本当の課題は統計には表れない「静かな離職」にあると指摘した。

「静かな離職」とは、退職はしないものの、仕事への意欲を失い、最低限の業務しか行わなくなる状態を指す。育児への配慮から責任ある仕事や昇進の機会が与えられなくなる「マミートラック」がその一因となり、本人の能力や意欲が十分に発揮されないまま組織に残るケースが少なくないという。高橋氏は、「家庭の事情だから」と離職理由を片付けるのではなく、そ



西能委員長



高橋 由紀氏

の背景に組織の構造や無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）がないかを見直す必要性を強調した。

また、産後の社員への支援はコストではなく投資であると述べ、5～7年かけて育成した人材が離職した場合、採用や教育などを含めると約1,000万円の損失につながるとの試算を紹介した。一方で、産後2年間程度の育児との両立を支援する制度や職場の理解に投資することで、優秀な人材の定着や将来的な企業価値向上につながると説明した。

さらに、富山県は女性の就業率や共働き率が全国でも高い一方、女性管理職比率は全国平均を下回る現状を示し、「働いているが評価されていない女性」が多い可能性を指摘。出産・育児を理由に能力を発揮する機会を失わせることは、企業だけでなく地域全体の人材不足や少子化にも影響を及ぼすと述べた。

高橋氏自身も3人の子育てをしながら事業を続けてきた経験を交え、「子育て中だから仕事を任せない」という善意の配慮が、かえって本人のやりがいや成長機会を奪うことがあると説明。大切なのは、一人ひとりの状況に寄り添いながら役割や挑戦の機会を提供し、対話を重ねることだと訴えた。

講演後のグループワークでは、「離職リスク自己診断シート」を用いて各社の離職リスクチェックを実施。育児支援や人材定着に向けた取組事例を共有しながら、誰もが能力を発揮し、安心して働き続けられる職場づくりについて活発な意見交換が行われた。人的資本経営やDEIの推進を考える上で、多くの示唆が得られる有意義な委員会となった。



中堅教員へのメッセージ

— 富山市中堅教諭等資質向上研修 —

6月24日(水)、寺島雅峰氏(株)寺島コンサルタント代表取締役)、福崎秀樹氏(株)フクール代表取締役)が、中堅教諭等資質向上研修「社会に学ぶ研修会1」(富山市教育センター主催)において、採用から11年目を迎えた富山市内の小・中・義務教育学校の中堅教諭60名を対象にオンラインで講演を行った。



寺島 雅峰 氏

寺島代表は、長年にわたりPTA活動や学校運営協議会での経験を通じ、地域の教育に携わってきた経験を紹介するとともに、「次世代のまちを創造する」という企業理念のもと、子どもたちが安全・

安心して暮らせるまちづくりを目指し、時代のニーズに応じた地域づくりに取り組んでいることを説明した。
続いて、先行きが不透明で変化の激しいVUCA時代においては、従来の価値観や成功体験にとらわれず、変化に対応できる「人財」の育成が重要であると説明。社員を「人材」ではなく「人財」と捉え、創造力やコミュニケーション能力、主体性などを育む企業づくりを進めるとも

に、学校教育においても、子どもたちが自ら考え、判断し、行動する「生きる力」を育むことが重要であると語った。

また、教員の多忙化によって子どもたちと向き合う時間が失われている現状に触れ、「先生に元気をチャージ！プロジェクト」などを通じてPTAや経済界が教員の働き方改革を支援していることを紹介。学校だけで課題を抱え込まず、企業や地域などとの連携を積極的に進め、社会全体で子どもを育む「チーム富山」の実現が重要であると訴えた。

最後に、「学校の中だけでなく、地域や異業種のひととの交流を通して視野を広げて」と呼びかけるとともに、「子どもたちが小さな失敗を繰り返しながら成長できる環境を学校が許容し、保護者を応援団として味方につけてほしい」と語った。「先生方は将来の日本を創る、誇り高い聖職である」と熱いエールを送り、締めくくった。



福崎 秀樹 氏

福崎代表は冒頭、「働く人の力になる」を理念に掲げ、社員一人ひとりの幸せを大切にしたい会社づくりを進めていることを紹介した。また、新入社員研修として4泊5日の立山連峰縦走を実施するなど、人間力を育むことを目的とした取り組みについて説明した。

続いて、AI技術の急速な進化によって知的労働の在り方が大きく変化している現状を踏まえ、人間には自ら行動し、経験を重ねる力が一層重要になると説明した。また、「計画的偶発性」の考え方を紹介し、将来のキャリアは偶然の出会いや経験によって形成されることが多く、その機会を

活かすためには、好奇心を持って挑戦し続ける姿勢が重要であると述べた。

また、幸福度に関する調査結果を例に挙げ、条件が揃っていても人は幸せを感じるには限らないことを紹介。「必要な力」と「大切な力」は異なり、困難を乗り越える力や人とのつながりなど、人間力がAI時代において重要な要素になるとの考えを示した。

さらに、能登半島地震で被災しながらも事業再建を目指す職人の事例を紹介し、「他者を思う心」や「覚悟」こそが、AIでは代替できない人間の本質的な力であると語った。

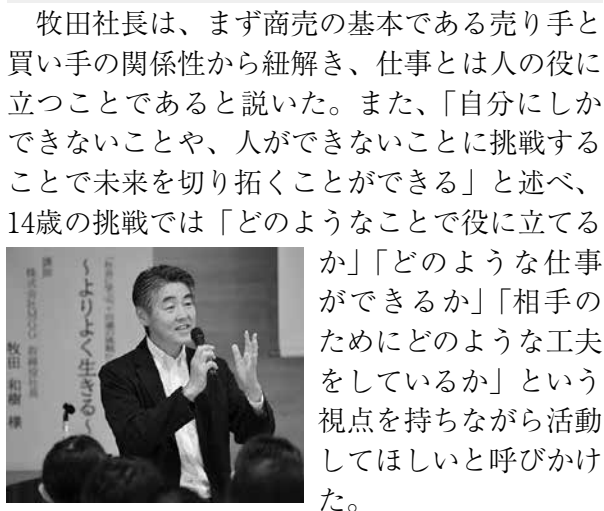
最後に、教育現場においても、知識の習得や選択肢を選ぶ能力だけでなく、失敗を許容し、主体性を育む環境づくりが求められていると述べた。何かに一所懸命取り組む経験や、友人との関わりを大切にすることが、不確実な未来を切り拓く「生きる力」に繋がると締めくくった。



— 課外授業講師派遣 —

第1回 富山市立新庄中学校

5月14日(木)、牧田和樹氏(株MGG取締役社長)が富山市立新庄中学校にて、14歳の挑戦への体験を控えた2学年244名を前に「よりよく生きる」と題して課外授業を行った。



牧田 和樹 氏

さらに、社会に出る

と正解のない問題に向き合うことになるとした上で、判断の拠り所となるのは「勘や直感」で



あり、それを磨く基盤こそが「豊かな人間関係と思いやり」であると強調した。勘や直感は潜在意識によって育まれ、そのためには知恵が必要であり、知恵を得るためには人脈や良好な人間関係が欠かせないと説明。人間関係を築くためには相手を認めるサインである挨拶や相手を思いやる心が大切であるとし、「for meを抑え、for youを広げていこう」と伝えた。

最後に、将来の夢や目標に対して、「目的を明確に持てば、その実現に向けた手段は無限にある」と述べ、「14歳の挑戦を将来や人生の目的について考えるきっかけにしてほしい」と生徒たちにエールを送った。

第2回 富山県立高岡商業高等学校

6月5日(金)、塩口泰地氏(合同会社BizMalS代表社員)が高岡商業高等学校創立記念式典にて、全校生徒534名を前に「『やってみたら、なんとかなる』は本当か—“普通の大人たち”の試行錯誤—」と題して課外授業を行った。

塩口代表は、大学までを岡山県で過ごし、その後東京での生活からの転職、さらにはアニマルカフェやペットホテル事業への挑戦、富山へ移住した経緯など、自身の多様な経験を率直に語った。また、高校時代には、周囲との違いに悩み、いじめを受けた経験にも触れ、海外留学先でかけられた「塩口が塩口らしくあればいい」という言葉に救われ、自己肯定感を取り戻した経験を紹介。「環境やコミュニティが変わることで人生は大きく変わる」と伝えた。



塩口 泰地 氏

という言葉に救われ、自己肯定感を取り戻した経験を紹介。「環境やコミュニティが変わることで人生は大きく変わる」と伝えた。

さらに、「挑戦とは成功し続けることでは

ない。違うと思ったらやめることも選択肢の一つ」と述べ、失敗や挫折を恐れず行動することの重要性を強調。「動いた先に見えるものがある。動けば人生は枝分かれし、新しい出会いや可能性につながる」と語った。また、「いろいろな人に会っていると、『こんな人になりたい』と思える人に出会えるはず」と述べ、人との出会いが自身の成長や将来の可能性を広げることを生徒たちに語りかけた。

最後に、一見無関係に見える経験が後に結び付き、現在の活動につながっていることを振り返りながら、「小さな挑戦の積み重ねが今に繋がっている。やらなければ人生は変わらないが、挑戦すると選択肢は増えていく」と語った。そして、まずは一歩踏み出すことの大切さを呼びかけ、講演を締めくくった。



第3回 富山県立雄峰高等学校

6月11日(木)、福崎秀樹氏(株フクール代表取締役)が富山県立雄峰高等学校において、進路ガイダンスを控えた中間単位制3年次94名を前に、「AI時代に生きるチカラを考える」と題して課外授業を行った。

福崎代表は、まず、(株)フクールと経営者仲間と設立した一般社団法人百年示道塾とやまの活動を紹介。社員一人ひとりの人生を輝かせるため、社員の幸せを大切にしたい会社づくりに力を入れていることや、「100年後の子どもたちに輝く日本を残したい」との思いから取り組む立山を縦走する新入社員研修について語った。

次に、幸福度ランキングを例に、富山県は客観的な指標では高い評価を受けている一方で、



福崎 秀樹 氏

主観的な幸福度が低い点に触れ、「幸せは与えられるものではなく、自ら考え、決めるもの」と強調。また、SNSやAIの急速な普及により情報があふれる現代社会では、自分自身が

本当にやりたいことを見失いやすくなっていると指摘し、「これからの時代は正解を探すのではなく、自ら正解を生み出していく力が求められる」と語った。



さらに、AIの急速な進化に触れながら「不確実な時代だからこそ、問題を発見し、自ら考え行動する力が重要になる」と説明した。そのうえで、「AIにはない、人間にしかない力や資質を磨いてほしい」と呼びかけた。

後半では、能登半島地震の被災地支援活動を通じて出会った人々のエピソードを紹介。震災に負けまいと新たな挑戦を続ける輪島塗職人や、仲間と協力しながら復興に取り組む青年の姿を通し、「仲間を大切に、身近なものに感謝しながら力を合わせることが大切」と伝えた。

最後に、「今日話を聞いて何かを感じ、考え、そして一歩でも行動することで未来は変わる」と力強いメッセージを送り、講演を締めくくった。

第4回 富山県立高岡高等学校

6月17日(木)、牧田和樹氏(株MGG取締役社長)が富山県立高岡高等学校において、図書館が主催する文化講座において、図書委員他参加者約50名を前に、「生きるコツ」と題して課外授業を行った。

冒頭、同校卒業生である牧田社長は、「当時は落ちこぼれだった」と高校時代を振り返り、将来に悩んだ経験を持つからこそ、さまざまな経験や人との出会いが今の自分の人生を築いたと語った。その上で、高校時代は長い人生のほんの一場面に過ぎず、目の前の結果だけにとらわれる必要はないと後輩たちに語りかけた。

次に、社会に出ると、AIですら正解を出せない問題ばかりに直面すると説明。その中でより良い判断を導き出すには、決断の基準となる洞察力を養うことが不可欠であると語り、その



牧田 和樹 氏

ためには、「本当にそうだろうか」と問い直すクリティカルシンキングを身につけ、「なぜ」を繰り返し問いつけることで物事の本質を見抜くことが重要であると強調した。

また、物事の本質を見抜く力は、「知性」と「感性」の二本柱で成り立つと説き、「知性」は「情報×経験」の掛け算であり、一方がゼロでは力にならないと指摘。知性を深める手段として読書を推奨し、近年の本屋大賞受賞作を例に挙げながら、とりわけ小説は他者の人生を追体験でき、多くの疑似経験を積める有効な手段であることを呼びかけた。

さらに、「感性」の本質を自分以外の人の心に寄り添う共感力であると定義。人間社会は心と心の関わりで成り立つため、自己を理解した上で相手の話を最後まで聞くことや相手の立場に立つこと、多様な人脈を通じて異なる視点に触れることの大切さを伝えた。

最後に、「どれだけ論理的に考えても、最終的に頼るのは勘である」と述べ、日頃から「顕在領域」で身につけた知性や感性が、蓄積されている潜在意識から溢れ出したものが勘であると説明。潜在領域での積み重ねこそが、正解のない社会を「生きるコツ」であると締めくくった。



第5回 小矢部市立津沢小学校

6月25日(木)、塩口泰地氏(合同会社BizMalS代表社員)が小矢部市立津沢小学校において、5、6年生を前に「お店をつくるって、どういうこと?～スタートアップってなんだ?～」と題して課外授業を行った。

児童は10月の学習発表会で実施する「キッズショップ」に向け、グループごとに会社を立ち上げ、商品企画や販売準備を進めていることから、塩口代表は「お店づくり」の考え方について、身近な例を交えながら解説した。

冒頭、パソコンやAIを活用して困っている人を支援していることや、安心してペットを預けられる場所をつくりたいとの思いからペットホテルを経営していることを紹介。また、中学生の頃に夢中になったゲームの話から、児童たちにも馴染みのあるゲームを例に挙げ、



「無料なのになぜ利益が出ると思うか」と問いかけながら、ビジネスの仕組みや価値を生み出

す発想について説明した。

さらに、「スタートアップとは、身の回りの『あったらいいな』を新しく形にすること。

みんなが準備を進めるキッズショップと同じ考え方」と伝え、自分たちの活動と重ね合わせて理解できるよう分かりやすく解説。続けて、お店づくりの三つの柱として、「誰に来てほしいか」「何を売るか」「買った人にどんな気持ちになってほしいか」を具体的にイメージすることの重要性を説明した。また、キャッチコピーで商品の魅力を伝え、買う人の心を動かすことの大切さにも触れ、アドバイスを受けた児童からは独創的なアイデアが次々と発表された。

後半では児童からの原価率に関する質問に対して、経営者の視点から、来客予想数をもとに目標販売数を逆算する考え方を具体的にアドバイスし、商売の仕組みを伝えた。

最後に、「完璧を目指す必要はない。まずはやってみることが大事。失敗したら後で修正すればいい」とエールを送り締めくくった。



塩口 泰地 氏

第90回あけぼの会ゴルフコンペ

— 優勝は山口純平氏 —

6月28日(日)、呉羽カントリークラブ日本海コースにおいて、第90回あけぼの会ゴルフコンペを開催し、80名の会員が参加した。

表彰式では、麦野代表幹事が「今朝は雨が降ったが、その後は天候も落ち着き、素晴らしいコンディションの中でプレーできた。日本海コースから望む立山連峰も大変美しく、本日ご覧いただけなかった方には、ぜひ次回お楽しみいただきたい。秋のあけぼの会も、多くの皆様にご参加いただきたい」と挨拶し、乾杯の発声を行った。

優勝はネット70.4を記録した山口純平氏(山口郵便通送㈱)。麦野代表幹事から優勝賞品と記念品の富山ガラス工場の皿が贈



られた。山口氏は優勝の喜びを「素晴らしい天候、素晴らしいゴルフ場、そして素晴らしいメンバーに恵まれ、優勝することができた」と語った。

また、麦野・牧田・松田各代表幹事から代表幹事賞が贈られ、麦野代表幹事賞は小野陽一氏(三菱重工業㈱)、牧田代表幹事賞は塩口泰地氏(合同会社BizMalS)、松田代表幹事賞は伊勢徹氏(㈱ライフサービス)がそれぞれ受賞した。

最後に、塩井特別顧問が「これからも元気に、この会を盛り上げていきたい」と挨拶し、和やかな雰囲気の中、表彰式・懇親会を締めくくった。

(敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	山口 純平	49	43	92	21.6	70.4
準優勝	棚田 一也	48	46	94	22.8	71.2
3位	永井 秀宗	46	47	93	21.6	71.4
4位	藤 健二	46	46	92	20.4	71.6
5位	四十物直之	38	41	79	7.2	71.8



ご縁がつなぐ新たな挑戦

瓜 生 知 史

(NTT 西日本株式会社 富山支店長)

1年前の2025年7月に富山に着任いたしました。十分にご挨拶できていない方も多いかと存じますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

私は福岡県北九州市の出身で、就職を機に九州を離れて以来、全国各地で25年勤務をしてまいりました。今回の富山は9エリア目の赴任地となります。なお、北陸新幹線開通の頃に石川県金沢市に勤務経験があり、当時、幾度となく富山へ仕事やプライベートで足を運びました。幼い子どもを連れて、夏はキャンプ、冬はスキーや温泉と北陸の四季を満喫していた日々が懐かしく思い出されます。

今回は単身赴任で着任しており、この機会に富山をより深く知りたいとの思いから、各地を積極的に訪ねております。訪問先は事前に書籍やインターネットで調べ、スマートフォンの地図アプリに「行きたい場所」として記録し、訪問後はチェックを付けてライフログとして蓄積しています。なお、余裕があれば、撮影した写真や動画を編集し、SNSで発信も行っています。ぜひ皆様おすすめの場所がございましたらご教示ください。

さて、私は北九州市出身であることを先に申し上げましたが、富山県とは共通点が多いと感じております。まず挙げられるのは、「海の恵みに支えられた食文化」です。富山湾の「天然のいけす」には及ばないものの、北九州市も関門海峡、響灘、豊前海という異なる海域に囲まれた豊かな漁場を有し、その恩恵が食文化に色濃く反映されています。ふるさと納税の返礼品として、関門海峡で獲れる「とらふぐ」や高級魚である「クエ」などが人気のようです。

次に、「ものづくり都市」という共通基盤です。

富山県は豊富な水資源と電力を背景に製造業が発展してきましたが、北九州市も八幡製鉄所に代表される日本有数の工業都市として成長してきました。この他にも、日本海に面した沿岸都市であること、自然環境を重視した政策、近隣都市（福岡・金沢）との広域連携など、多くの共通点が見受けられます。機会がございましたら、ぜひ北九州市にも足をお運びいただければと思います。

一方で、富山には他地域に勝る、誇るべき独自の魅力があります。立山連峰の3,000m級の山々と富山湾の深海が織りなす高低差約4,000mのダイナミズム、さらに「天然のいけす」とも称される豊かな漁場がもたらす高い食材価値とブランド力。加えて、歴史・文化資源の厚みや景観の美しさが生み出す非日常性、豊かな水資源など、「自然・食・伝統」が高密度に凝縮された地域であると感じております。また、何よりも日々目にする「雄大な立山連峰」は富山に住んでいるからこそ出会える、かけがえない美しい景色だと感じています。

この美食と自然に恵まれ、四季折々の魅力がある富山を、自分だけが楽しむのではなく、国内外へ広く発信し、関係人口の創出やウェルビーイング先進地の実現に向けて、微力ながら貢献してまいりたいと考えております。

最後になりますが、富山の皆様の温かさと優しさには日々深い感銘を受けております。皆様との交流を通じて学びを深めながら、富山の豊かな未来社会の実現に寄与できるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

(次号はアルコット(株) 代表取締役社長の
矢澤 剛志 様です。)

活動報告

5月1日～6月30日

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
5月11日(月) 11:00～12:30 事務局会議室	第7回交流委員会	・会員エンゲージメント向上に関する 取組みについて	9名
5月12日(火) 17:00～20:10 オークスカナルパーク ホテル富山	第4回文化芸術委員会	・2026年度の活動計画について ・講演会 講師：昆布締め専門の飲食店 「クラフタン」店主 竹中 志光 氏 演題：「魅惑の万能食材 昆布の可能性」	32名
5月13日(水) 18:30～21:00 タリーズコーヒー高岡 おとぎの森公園店	地域創生委員会 第11回正副委員長会議	・前橋視察について ・産学官連携に関するアンケート・ヒ アリングについて ・今後の予定について	10名
5月18日(月) 16:30～20:10 富山電気ビルディング	第4回デジタル推進 委員会	・講演会 講師：(株)山岸製作所 代表取締役 山岸 晋作 氏 演題：「老舗家具屋が挑んだ企業変 革—オフィス改革を起点に、 働き方改革・AI/DX へとつ ないだ実践ストーリー—」 ・委員による事例紹介 発表者：(株)北陸銀行 常務執行役員 富山地区事業部本部長 黒川 央 氏 トワードローンサービス(株) 代表取締役 相馬 淳一 氏 リコージャパン(株) 富山支社長 田中 仁 氏 テーマ：「デジタルを活用した経営 課題解決につながる自社の 取組みについて」	43名
5月26日(火) 17:00～20:10 ホテルグランテラス 富山	第3回観光戦略委員会	・ワークショップ「富山ギャップ会議」 ～「当たり前」の裏側に眠る富山の 「想定外＝ギャップ」を発掘する～	36名
5月27日(水) 11:00～12:30 事務局会議室	教育を考える委員会 第5回正副委員長会議	・とやま教育共創フォーラム ・アンケート結果 ・7月定例会 ・今後の活動計画・提言作成に向けた スケジュール ・課外授業等のスケジュール及び審議 会委員への委嘱依頼	8名
5月29日(金) 17:15～20:00 事務局会議室	第5回総務企画委員会	・2026年度活動計画について ・県との意見交換会のテーマについて	5名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
6月2日(火) 18:30～21:00 昆布締め専門店 クラフタン	文化芸術委員会 第6回正副委員長会議	・第5回委員会（豊岡合同視察）について	6名
6月9日(火) 11:00～12:30 事務局会議室	観光戦略委員会 第6回正副委員長会議	・第4回委員会（ワークショップ）について ・県外視察について	7名
6月10日(水) 17:30～20:30 富山空港内 バスクバルトヤマ	地域創生委員会 第12回正副委員長会議	・前橋視察について ・産学官連携に関するアンケート・ヒアリングについて ・今後の予定について	12名
6月16日(火) 17:00～20:30 富山電気ビルディング	第4回観光戦略委員会	・ワークショップ「富山ギャップ会議」～「当たり前」を脱ぎ捨てて「新・富山」をデザインする～	36名
6月22日(月) 17:00～20:10 カフェコントレイル	第4回人財育成・活躍委員会	・講演会 講師：（一社）ボディセンス・インステイテュート 代表理事 （株）Wellbeing TOYAMA 代表取締役 高橋 由紀 氏 演題：「46.9%の衝撃—経営者が今、直視すべき『静かな離職』の正体」 無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）が招く損失を防ぐ人的資本経営のDEI実装	27名
6月24日(水) ～25日(木) 関東方面	第5回企業経営委員会	持続可能な経営に向けた先進的な取り組みを学ぶ 視察先：NTTe-City Labo （東京都調布市） Automation Square HANEDA （東京都大田区） JAXA筑波宇宙センター （茨城県つくば市） 首都圏外郭放水路 （埼玉県春日部市） ほか	17名

○課外授業講師派遣・教育講演講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師・演題
5月14日(木)	富山市立新庄中学校	2学年 244名	牧田 和樹 氏
6月5日(金)	富山県立高岡商業高等学校	全校生徒534名	塩口 泰地 氏
6月11日(木)	富山県立雄峰高等学校	中間単位制 3年次94名	福崎 秀樹 氏
6月17日(水)	富山県立高岡高等学校	図書委員他 約50名	牧田 和樹 氏
6月24日(水)	富山市中堅教諭等資質向上研修	富山市内小・中・義務教育学校11年次教員 60名	寺島 雅峰 氏
			福崎 秀樹 氏
6月25日(木)	小矢部市立津沢小学校	5、6学年 62名	塩口 泰地 氏

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
6月11日(木)	令和8年度中央日本地区事務局長会議	石川県	高岡事務局長

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
5月7日(木)	富山県北陸新幹線対策連絡協議会・北陸新幹線建設促進富山県民協議会 令和8年度通常総会・合同決起大会	ANA クラウン プラザホテル富山	麦野代表幹事 牧田代表幹事
5月18日(月)	「富山マラソン2026」第1回実行委員会	富山県民会館	高岡事務局長
5月19日(火)	2026年度委員長会議	富山電気 ビルディング	19名
5月27日(水)	日本海学推進機構運営委員会	富山県民会館	牧田代表幹事
6月1日(月)	富山県国際経済交流推進協議会 令和8年度定時総会	ANA クラウン プラザホテル富山	牧田代表幹事
6月9日(火)	富山県民ボランティア総合支援センター 通常総会	富山県民会館	高岡事務局長
6月12日(金)	あいの風とやま鉄道利用促進協議会幹事会	富山県民会館	高岡事務局長
6月19日(金)	第7回全国立山大使の会	日本橋とやま館 富山はま作	立山大使 10名 役員等 9名
6月28日(日)	第90回あけぼの会	呉羽カントリー クラブ	80名



今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
8月24日(月)	令和7年10月以降 入会新会員、 正副代表幹事、 常任幹事、 各委員会委員長、 交流委員会	新会員歓迎オリエンテーション	オークスカナルパーク ホテル富山
9月12日(土)	あけぼの会会員	第91回あけぼの会	呉羽カントリークラブ
10月14日(水) ～21日(水)	全会員	第44回海外経済視察	フランス
10月26日(月)	幹事以上	10月幹事会	オークスカナルパーク ホテル富山
10月26日(月)	全会員	10月会員定例会 講師：日本銀行金沢支店 支店長 今久保 圭 氏	オークスカナルパーク ホテル富山
12月9日(水)	全会員	海外経済視察報告会・年末懇親会	A N A クラウンプラザ ホテル富山
1月13日(水)	幹事以上	新年幹事会・富山県知事との昼食会	富山電気ビルディング

事務局からのお知らせ

事務局体制に変更がございましたので、担当委員会とあわせてお知らせいたします。

事務局次長 よしむら りえ 吉村 理恵（北陸電力(株)（デジタル推進委員会、地域創生委員会）

なお、若島啓子氏（前 事務局次長）は北陸電力(株) 社長室 秘書チームへ帰任致しました。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

〔表紙写真〕

第7回全国立山大使の会

6月19日(金)、東京の日本橋とやま館内「富山はま作」にて第7回全国立山前大使の会を開催。交流会前の記念撮影の一枚。

発 行 所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

<https://www.doyukai.org/>



1990年ニューヨーク・ウォールストリートにて



1990年ニューヨーク・マンハッタン・ウインターガーデンにて



米国タックスリース・トレーニー

株式会社富山銀行 代表取締役頭取

中 沖 雄

「おい、次はニューヨークだ」日本興業銀行入行3年目、新宿支店勤務の私は1年間の米国タックスリース・トレーニー（ニューヨーク支店勤務）の内示を受けた。前任の坂井辰史さん（前みずほFG社長）にアドバイスを求めると「1年は短い米国で学べる意義は大きい、旅行気分で行くと痛い目に合うぞ」と厳しく窘められた。正にその通りであった。

現地に到着早々、聞いたことのない金融用語が（当たり前ですが）英語で飛び交う世界に放り込まれた。米国の税制を活用した大型設備リースを現地の日系企業向けにアレンジする業務で、いきなり分厚い専門書を何冊か渡され「読んでおけ」と言われる。ちんぷんかんぷんの中で、先輩に連れられて専門の弁護士や鑑定士とのミーティングに参加し「次回からはお前が一人で行け」と言われる。正に地獄、トレーニーならぬドレーニン（≒奴隸人）である。難解な税法と微妙に異なる耐用年数や残価分析等々、複雑に絡み合う数多くのファクターを織込んで経済性を極大化する条件を算出するのだが、その為

の専用計算ソフトも開発されていた。あたかも未来の金融界にタイムスリップした感覚であった。

そんなドタバタの毎日が続く中、更なる試練が待ち受けていた。前例のない新型税制が導入されるので、タックスリースへの影響と対策を考えろというのだ。税収不足を解消する為、従来とは違う方法で税額を計算し、どちらか大きい方の税額を支払うという複雑な新制度「AMT (Alternative Minimum Tax)」で、徹夜で試算を繰り返す日が続いた。当時のニューヨークは治安が大変悪く、真夜中に一人で高層ビルのオフィスで残業するのは命懸けで、巡回警備員に背後から突然大声を掛けられた時は生きた心地がしなかった。

トランプ大統領が前回の大統領就任早々AMTを廃止した。30年振りに当時のことを生々しく思い出したが、今となっては厳しい仕事を経験出来たことは、多くのことを学ぶ良い機会であったと感じている。